事務事業評価シート (評価対象年度：令和元年度)

1. 基本的事項【PLAN】

①事務事業名	産官学連携まち・海・里山活性化加速化及び創生事業(水産振興)			②事業番号	3415		
③事業類型	3. 政策推進事業			④開始年度	平成 27 年度	⑤終了予定年度	令和 3 年度 ○ 設定なし
⑥根拠法令等	○ 法令	○ 条例	○ 規則	○ 要綱	○ 計画等	○ その他	法令等の名称: まち・ひと・しごと創生法 泉南市水産資源再生事業補助金交付要綱
⑦実施手法	直営	○ 全部委託	○ 一部委託	○ 補助・負担	○ その他		
⑧関連予算科目コード	款	5	項	3	目	1	細目 3、4
⑨担当部署	市民生活環境部			⑩担当課名	産業観光課		
				会計	一般会計		

2. 事務事業の現状把握【DO】

【1】事務事業の目的・事業内容

(1)対象(誰、何に対して事業を行うのか)	対象指標(対象者数を表す指標)	単位
① アナゴ	① アナゴ	グラム
②	②	
(2)事業内容(具体的な事務事業の内容、どのような方法で実施しているか)	活動指標(活動の量を表す指標)	単位
漁獲高が激減しているアナゴの保全・再生と併せ、水産業の振興と観光資源としての活用による市全域を活性化させるため、近畿大学、岡田浦漁業協同組合と協力し、産官学連携によるアナゴの養殖を実施する。 近畿大学水産研究所の技術指導のもと、岡田浦漁業協同組合が主体となり、アナゴの養殖に取り組む。	① アナゴの成長	グラム
	②	
	③	
(3)意図(対象をどのような状態にしたいか、何をねらっているのか)	成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位
*泉南沖で捕獲した30グラム程度のアナゴを、岡田浦漁業協同組合が養殖し、180グラム程度まで成長させ、ブランド化を図る。	① アナゴの養殖数	匹
	② 計算式	
	③ 計算式	
(4)結果(対象を意図する状態にすることで、何に結びつか。上位施策との関連)	総合計画体系上の位置付け	
*水産業の振興とアナゴを新たな観光資源としての活用による市全域の活性化が図られる。 その他の体系上の位置付け (3-4-3-1):せんなんブランドの確立。 (3-1-2-3):担い手の確保 漁業	政策(章)	3 産業の活力が増し、賑わいと交流が生まれるまち
	施策大(節)	1 大地と海からの恵みとしておいしく安全な食料を供給し続けるとともに、魅力的な農業と漁業のあるまちをめざします
	施策中	2 漁業の振興
	施策小	1 漁業振興の促進

【2】各種指標値、事業費の推移

指標名		単位	H29実績	H30実績	R1実績	R2見込	R3目標	指標値の推移における特殊要因などの説明
対象指標①	アナゴ	グラム	30	30	30	30	—	
対象指標②								
活動指標①	アナゴの成長	グラム	150	150	150	150	—	
活動指標②								
活動指標③								
成果指標①	アナゴの養殖数	匹	5,000	7,000	10,000	15,000	—	
成果指標②								
成果指標③								
事業費	投入人員							事業費などの推移における特殊要因などの説明
	正職員	人	0.61	0.51	0.55	0.55		
	任期付職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		
	臨時職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		
事業費	人件費(投入人員*単価)	千円	4,898	4,135	4,242	4,242		
	直接事業費	千円	9,125	8,690	6,979	8,000		
	総事業費	千円	14,023	12,825	11,221	12,242		
財源内訳	国庫支出金	千円	4,149	3,995	3,477	0		
	府支出金	千円	0	0	0	0		
	受益者負担金	千円	0	0	0	0		
	その他特定財源	千円	0	0	0	0		
	一般財源	千円	9,874	8,830	7,744	12,242		

【3】事務事業開始の経緯、状況の変化、評価結果への対応

①この事業を開始したきっかけは何か。	全額補助の国の地方創生交付金を活用しようとした。
②開始から現在までこの事務事業を取り巻く状況は、どのように変化したか。また、今後どのように変化していくと考えられるか。	養殖及びブランド化等を成功させ、岡田浦漁業協同組合による経営自立ができれば、市として連携はしていくものの、事務事業の廃止が見込まれる。
③前年度の評価結果を受けて行った改革・改善の取組はあるか。	泉南あなごのPRの推進を図った。

3. 事務事業の評価【CHECK】

[1]目的妥当性(必要性)

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

[1]の評価 **A**

評価項目	評価及び理由・説明等	
①事務事業の意図すること(目的)は、上位施策(施策小)の達成に貢献しますか。	ア. する イ. ある程度 ウ. しない	漁獲高が激減しているアナゴの保全・再生と併せ、水産業の振興と観光資源としての活用により市全域の活性化に繋がる。
②税金を使って達成する目的ですか。(市が関与する必要がありますか、市民(特に納税者)の納得が得られますか。民間に類似サービスはありませんか。)	ア. はい イ. ある程度 ウ. いいえ	水産業振興及び観光資源として充実させるためには税金が必要である。
③対象範囲、単価、事業費規模は市民のニーズや社会環境に合っていますか。(他団体と比較してどうですか。)	ア. 合っている イ. ある程度 ウ. いない	アナゴの養殖事業は、最終的には泉南市の活性化に寄与する。
④事務事業を休止・廃止した場合、市民生活(あるいは上位施策)への影響はありますか、ある場合それは大きいですか。	ア. 影響がある イ. ある程度 ウ. ない	関係団体との緊密な連携は必要とされるが、市民生活に直接的影響は大きいとはいえない。

[2]有効性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

[2]の評価 **A**

⑤期待どおりの成果が得られていますか。	ア. 得られている イ. ある程度 ウ. いない	全国各地の飲食店や輸出業者等から「泉南あなご」仕入れについて問合せがあり、一定ブランド化は認められる。
⑥今後事務事業を工夫することで成果向上の余地はありませんか。(事務事業の成果指標をさらに伸ばすことができませんか。)	ア. ある イ. ない	さらに大水槽(10t)1基と井戸1基を導入できれば施設整備は完了し、養殖作業の効率化と養殖数の向上を図ることができる。
⑦庁内の他部署で、類似の目的を持つ事務事業はありませんか、それらと統廃合や連携を行うことで、より成果を向上できませんか。	ア. 類似なし イ. できる ウ. できない	—

[3]効率性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

[3]の評価 **A**

⑧成果を下げずに事業を工夫してコスト(直接事業費+人件費)を削減する手法はありませんか。(業務改善、業務の委託化、委託業務内容の見直し、IT化などはできませんか。)	ア. ある イ. ない	施設整備及びエサ代等、コストは必要最小限の費用である。
⑨受益者負担の適正化余地はありませんか。(歳入確保はできませんか。)	ア. ある イ. ない	交付金事業であり、市も補助事業としていることから、受益者負担は考えにくい。

4. 総合評価

総合評価	評価(A~D)	個別評価の結果を踏まえて課題等を整理	A: 現状のまま事業を進めることが適当 B: 課題が少しあり事業の一部見直しが必要(事業の進め方に改善が必要) C: 課題が多くあり事業の大幅な見直しが必要(事業規模、内容、実施主体の見直しが必要) D: 事業の統合、休止・廃止の検討が必要
	A	もう少しで、岡田浦漁組単独による経営自立が達成できる。そのためには、令和3年度まで補助する必要がある。	

5. 改革、改善案【ACTION】

<今後の方向性>

ウ	<p>ア. 現状のまま継続</p> <p>イ. 見直しのうえで継続</p> <p>ウ. 終了 (R3年まで)</p> <p>エ. 休止 (年 年から)</p> <p>オ. 廃止 (年 年から)</p>
ウ	<p><今後の展開方針></p> <p>a. 重点化する(集中的なコスト投入)</p> <p>b. 手段を改善する(実施主体や実施手段を変える)</p> <p>c. 効率化する(コストを下げる)</p> <p>d. 簡素化する(規模を縮小する)</p> <p>e. 統合する(他の事務事業と統合する)</p>
①改革、改善の具体案、実施年度など	・平成27年度に国の地方創生事業として採択され令和元年度まで5年間、施設整備やブランド化を図りながら養殖に取り組んできたが、令和元年度にて国庫補助は終了する。しかし、経営自立するための大水槽の導入等、施設整備の必要性など課題はまだあり、市単独による補助金を活用して施設整備を完了させる。
②改革・改善を実現するうえで、解決すべき課題及び考えられるその解決策	・施設整備することで、歩留まり率を向上させることができ、岡田浦漁組単独による経営自立を達成することができる。